

看護学科の先生からのおすすめ図書紹介

新井 信之 先生

(精神看護学概論 コミュニケーション論)

対人コミュニケーション入門：看護のパワーアップにつながる理論と技術	渡部富栄	ライフサポート社	193p
	492.9014/16		
先生からの推薦文 コミュニケーションに関する書籍は多数ありますが、理論をしっかりと踏まえた総合的な書籍であると思います。構成のはじめで言葉のやりとりだけではないコミュニケーションの基本を分かり易く説明し、また各章の始めにはモノクロの写真と詩が載っていて、読む者自身の生き方について考えさせてくれる構成になっています。看護学生から新人看護師、更には臨床経験を積んだベテランにも役立つ内容になっています。			
伝え方の魔術：集める・見抜く・表現する	及川幸久	かんき出版	287p
	S0/20495		
先生からの推薦文 国際情勢YouTuberである著者が、仕事や毎日の日常における人間関係、SNS、何気ない会話などに役立つ「情報収集」と「伝え方」のスキルが分かり易く説いている。 SNSによる情報発信や情報収集はとても便利であるが、トラブルや騙されるリスクを避けるためにも、より一層、情報を適切に集め、事実に基づき読み解き、相手に伝えることが大切である。本書を読むことで得られるという9項目のメリットが示され、また、文字と行間が大きく非常に読み易く、大学生活と学修に役立つ本である。			

伊神 美早 先生

(基礎看護技術演習)

父と娘の認知症日記：認知症専門医の父・長谷川和夫が教えてくれたこと	長谷川和夫, 南高まり	中央法規出版	174p
	S9/20035		
先生からの推薦文 長谷川和夫先生は、1929年愛知県生まれです。現在も使用されている「長谷川式簡易知能評価スケール」を開発されました。自らも認知症になられたことを公表され、「生きている限り生きぬきたい、生かされるのではなく、自分の意志で生きたい」と当事者の立場から認知症の人の想いを発信されています。 この本は、先生の日記と娘まりさんのエッセイからなり、日々を豊かに生きるヒントが書かれています。			
看護は私の生き方そのもの	長濱晴子	医学書院	233p
	S4/22654		
重症筋無力症という難病を患った元ナースの著者が、難病になって考えた病気や健康のこと、私流天地人療法(セルフナーシング)の実践経過や看護の視点を活かした中国での活動、看護の心を伝える努力などを綴る。			
キラリ看護. 新訂	川島みどり	医学書院	216p
	498.14/168		
看護のプロセスは楽しいことばかりでないのも事実です。でも困難が大きければ大きいだけ、それを乗り越えた喜びは格別です。看護を50年以上続けてきた著者が、ひとりの先輩として看護の魅力を伝えます。			
看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング	篠崎恵美子, 藤井徹也	医学書院	134p
	492.9014/5		
あなたなら、どう話しかけますか？ 看護の専門家として対人関係を築くために必要なコミュニケーションのスキルを、基礎から段階的に学べるテキスト。			
私は私のままで生きることにした	キム・スヒョン著；吉川南訳	ワニブックス	287p
	S1/17979		
中途半端な年齢、中途半端な経歴、中途半端な実力をもつ、中途半端な大人になった私たちは、誰もが大人のふりをしながら生きている。本書には、今を生きる普通の人へのいたわりと応援を詰め込んだ。何が正解なのかわからない世の中で、誰のまねもせず、誰もうらやまず、自分を認めて愛する方法を伝えたい。			

博士の愛した数式	小川洋子	新潮社	291p
	S9/7894		
先生からの推薦文			
第1回本屋大賞を始め数々の賞に輝いた物語です。80分の短期記憶が毎日リセットされてしまう博士とともに家政婦として博士と関わるようになった女性とその息子の3人の日常を描いた話。 博士がもつ制約された記憶の中で数式を通してお互いの気持ちを思いやり、信頼し、敬愛していく、とても温かい気持ちになれる本です。 看護をしていく上で人とどう向き合い関係性を気づいていくのか考える時のヒントとなるような物語ではないかと思います。 相手を理解することの難しさや相手を気遣う精神が大切だということを物語を通して示してくれるのではないのでしょうか。			
恍惚の人	有吉佐和子	新潮社	437p
	S9/11127		
老いて永生きすることは幸福か？ 日本の老人福祉政策はこれでよいのか？ 誰もが迎える〈老い〉を直視し、様々な問題を投げかける。			
看取り最期まで「その人である」ことを支える	川上嘉明	メディカ出版	138p
	369.26/391		
苦痛を与えてまで延命するのではなく、死を自然な過程として捉え、苦しみを取り除き、住み慣れた自宅や施設で看取るための考え方と実践のために何をすべきかを伝える一冊。			
明日の記憶	荻原浩	光文社	387p
	購入準備中		
広告代理店営業部長の佐伯は、齢五十にして若年性アルツハイマーと診断された。仕事では重要な案件を抱え、一人娘は結婚を間近に控えていた。銀婚式をすませた妻との穏やかな思い出さえも、病は残酷に奪い去っていく。けれども彼を取り巻くいつもの深い愛は、失われゆく記憶を、はるか明日に甦らせるだろう！			
わが母の記 花の下・月の光・雪の面	井上靖	講談社	238p
	購入準備中		
80歳の母を祝う花見旅行を背景にその老いを綴る「花の下」、郷里に移り住んだ85歳の母の崩れてゆく日常を描いた「月の光」、89歳の母の死の前後を記す「雪の面」。枯葉ほどの軽さのほかない肉体、毀れてしまった頭、過去を失い自己の存在を消してゆく老耄の母を直視し、愛情をこめて綴る『わが母の記』三部作。〈老い〉に対峙し〈生〉の本質に迫る名篇。			

大竹 美紀 先生

(成人急性期看護論Ⅰ・Ⅱ)

ハッピーバースデー	青木和雄, 吉富多美	金の星社	261p
	購入準備中		
先生からの推薦文 「自分の側からみているだけでは、物事の心理を見落とす。相手を信じること、許すことは自分を大事にすることもあるんだぞ」という言葉が友人や親との関係に悩んだ時に響きます。人は変わることができると勇気を貰うことができます。自分の内面と向き合うことの大切さを教えてくれる本です。			
西の魔女が死んだ	梨木香歩	新潮社	226p
	S9/3934		
中学に進んでもまもなく、どうしても学校へ足が向かなくなった少女まいは、季節が初夏へと移り変わるひと月あまりを、西の魔女のもとで過ごした。西の魔女ことママのママ、つまり大好きなおばあちゃんから、まいは魔女の手ほどきを受けるのだが、魔女修行の肝心かなめは、何でも自分で決める、ということだった。			
旦那(アキラ)さんはアスペルガー	野波ツナ	コスミック出版	165p
	購入準備中		
本人はマイペースでも、家族は今日も嵐の中! アスペルガー症候群の男性と結婚したマンガ家が、夫との過去のできごとを振り返り、発覚以降の生活のことや子どもたちから見たことを描きます。著者と監修者との対談なども収録。			
その先の看護を変える気づき：学びつづけるナースたち	柳田邦男, 陣田泰子, 佐藤紀子編集	医学書院	142p
	492.9/207		
自分の看護実践はどんな意味があったのかを自覚するのは、非常に重要である。看護学生の書いたエッセイやレポートなどを紹介し、編者たちが講評し、意味付けをする。			
頭に来てもアホとは戦うな!：人間関係を思い通りにし、最高のパフォーマンスを実現する方法	田村耕太郎	朝日新聞出版	221p
	S1/16302		
苦手なヤツほど、徹底的に利用せよ。(1)相手の欲望を見抜き(2)腰を低くして、助けを求め(3)味方にする!目標がみるみる叶う最強の「人の動かし方」。			

河村 諒 先生

(成人慢性期看護援助論)

脳梗塞を生きる：改編『脳梗塞の手記』	菊池新平	東京図書出版	272p
	916/93		
先生からの推薦文			
脳梗塞を発症した患者さんの手記です。これまで当たり前のようにできていた日常生活が突然できなくなるとはどういう体験であるのかを叙情的に述べています。これまで患者さんからみえる景色について考えたことはありますか？医療従事者からみえる景色とはまるで別世界です。これまで臨地実習に参加してきた学生さんに限らず、これから医療、看護を学ぶ学生さんには是非とも読んでいただきたい1冊です。			
閉じこめられた僕：難病ALSが教えてくれた生きる勇氣	藤元健二	中央公論新社	262p
	916/94		
大好きなうどんも食べられない。ディズニーランドも行けない。呼吸もできない。それでも僕は、前向きだ！家族と音楽を愛する男（53歳）が、ある日突然ALS（筋萎縮性側索硬化症）を発症。「永遠の金縛り」のなか、“眼”だけで綴った衝撃の「難病ノンフィクション」！			

人生を物語る：生成のライフストーリー	やまだようこ編著	ミネルヴァ書房	281p
	140/787		
人は「語る」ことによって、生の意味を見だし、自己を変え、人と人の共同世界をつくり、世代と世代をつないでいきます。心理学、人類学、教育学、社会学など学問の壁を超え、最先端の「物語」アプローチで来し方と行く末をむすび、ものの見方を創造的にひらいていきます。			
二次的外傷性ストレス：臨床家、研究者、教育者のためのセルフケアの問題	B.H. スタム編；小西聖子，金田ユリ子訳	誠信書房	311p
	493.74/38		
トラウマをもつ人をケアすることは、自分自身がまた傷つくことでもある。外傷性ストレスがケアの対象として定着した米国では、ケアを行う者への支援が重要な課題となっている。本書は、二次的外傷性ストレスの予防と治療という新たな問題について、米国のトラウマ研究や臨床に関わる第一線の執筆陣が、あらゆる角度から議論を展開している。			
災害ケースマネジメント◎ガイドブック	津久井進	合同出版	271p
	369.3/71		
被災者と向き合った著者だからわかる、リアルな災害の数々の事例から考える、生活再建に向けた効果的な支援策、法律制度、地方自治体・民間団体による支援の際に、必要な情報を90のポイントにまとめた「災害ケースマネジメント」ガイドブック。			

岸 あゆみ 先生

(基礎看護学)

看護とケア：心揺り動かされる仕事とは	三井さよ	角川学芸出版, 角川グループパブリッシング (発売)	190p
	492.9/171		
先生からの推薦文			
この本の著者は、看護師ではなく社会学者です。これまでに著者が出会った看護師たちへのインタビューで、語られた出来事で強く印象に残ったものが取り上げられ、それについて考えたことが書かれています。この本の中では、看護師であれば誰でも抱えるような様々な問題や葛藤が描かれています。それに対して、社会学者である著者が違った観点からその出来事を見て考えることで、新たな意味を見出したり、気づかなかった大切なことに気づかせてくれたりします。そして、看護職は患者さんの生き方とくぶつかりあう専門職であるということを感じさせてくれる一冊だと思います。			
病いの語り：慢性の病いをめぐる臨床人類学	アーサー・クラインマン著 / 江口重幸ほか訳	誠信書房	123p
	493.1/2		
本書は、慢性の病いをかかえた患者やその家族が肉声で語る物語を中心に構成されている。生物医学が軽視しがちな病いの「経験」と「語り」に耳を傾けてその意味を理解することが、現代の医療やケアに最も必要であることが明らかにされる。			
その幸運は偶然ではないんです!：夢の仕事をつかむ心の練習問題	J.D. クランボルツ, A.S. レヴィン著；花田光世ほか訳	ダイヤモンド社	229p
	S1/22585		
もうキャリアプランはいらない! 転機を活かして人生を変えた人たちの、ほんの少しの勇気とは? 心理学者・キャリアカウンセラーが読み解いた45人の心の準備。普通の人たちが偶然を活用してチャンスを掴んだ事例を紹介。			
安楽死を遂げるまで：the road to euthanasia	宮下洋一	小学館	348p
	490.1/19		
安らかに死ぬ――。本当に字義通りの逝き方なのか。患者たちはどのような痛みや苦しみを抱え、自ら死を選ぶのか。遺された家族はどう思うか。当初、安楽死に懐疑的だった筆者は、どのような「理想の死」を見つけ出すか。第40回講談社ノンフィクション賞を受賞した渾身ルポルタージュ。			
人魚の眠る家	東野圭吾	幻冬舎	469p
	S9/16491		
「娘の小学校受験が終わったら離婚する」。そう約束していた播磨和昌と薫子に突然の悲報が届く。娘がプールで溺れた一。病院で彼等を待っていたのは、「おそらく脳死」という残酷な現実。一旦は受け入れた二人だったが、娘との別れの直前に翻意。医師も驚く方法で娘との生活を続けることを決意する。狂気とも言える薫子の愛に周囲は翻弄されていく。			

久保 金弥 先生

(人体構造・人体機能学Ⅰ・Ⅱ、口腔健康管理学)

図解眠れなくなるほど面白い遺伝の話	安藤寿康監修	日本文芸社	127p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
「同じ親からさまざまな子が生まれる理由」「両親の身長が低いと生まれてくる子どもの背も低い?」「親の育て方は子どもの正確に影響しない?」「息子は母親似、娘は父親似というのは本当か?」「生涯収入と遺伝の意外な関係性」などを分かりやすく解説しています。遺伝の仕組みを理解するのにうってつけの本だ。			
図解眠れなくなるほど面白い生命科学の話	高橋祥子	日本文芸社	127p
	購入準備中		
地頭をよくするには? やる気を出すためには? 一目ぼれは、どうして起きる? など、疑問形式で楽しく読める脳の話が満載。仕事や学習、恋愛、人付き合いなど日常の生活でも役に立つ、脳の雑学教養本です。脳のしくみがわかると、人生が変わる! AI時代となって来た今、人口知能に負けない、脳の活かし方もわかります。			
図解眠れなくなるほど面白い人体の不思議	荻野剛志監修	日本文芸社	127p
	購入準備中		
科学が発達した現在でも「人体」は多くの謎と不思議に包まれ、最も身近で関心の高いテーマである。本書では、最新データや研究に基づきながら、人体の不フシギとナゾをわかりやすい「図解」で解き明かす。			
スピノザの診察室	夏川草介	水鈴社	287p
	購入準備中		
現役医師として命と向き合い続けた著者が到達した、「人の幸せ」とは。累計340万部突破のベストセラーシリーズ『神様のカルテ』を凌駕する、新たな傑作の誕生! その医師は、最期に希望の灯りをとむす。			
ビックリするほどよくわかる記憶のふしぎ	榎本博明	ソフトバンククリエイティブ	206p
	購入準備中		
どんなに大切に重要な記憶でも、いつの間にか忘れていたり、内容が変わってしまったりするのは、なぜなのか? 記憶のメカニズムや忘れることの意義、記憶力を高めるさまざまな技術などについて、わかりやすく解説する。			

無名の語り：保健師が「家族」に出会う12の物語	宮本ふみ	医学書院	214p
	S9/20504		
先生からの推薦文 なんでも屋さんのごようで便利屋ではない。身近に常にそばにいてはいいけれど赤の他人ですごく人を大切に想い寄り添いたいと思いつながら働いている。それが保健師だと感じました。困難な場面に直面している家族等、支えが必要な家族への保健師の関わり、そして一人で抱え込まないことの大切さが伝わる一冊です。 保健師自身も、対象者支援にのめりこみ過ぎて視野が狭くならないことも大事、保健師も他者を頼ることも大事です。対象者や家族、保健師だけでなく皆が何かしらのネットワークをもっておくことは、それぞれ自分を守ることに繋がるものだなと感じられます。 保健師を目指す学生さんや、保健師って何?と思っている方にもお勧めの一冊です。			
駐在保健婦の時代：1942-1997	木村哲也	医学書院	333p
	498.14/191		
先生からの推薦文 「駐在保健婦」に関する高知、沖縄、青森を中心とした本。民俗学の著者が記した本とあって、主観もなく史実として読み進められる本です。 世の中の疾病構造が感染症蔓延とその撲滅のために奔走していた時代は駐在制度が適していたのだと思うけれど、地域保健法施行の方針で駐在制が廃止となった今の時代にこの制度があったらどうか?保健師の理想的な活動形態かもしれませんが、駐在には少なくない私生活の犠牲が伴うとも思われます。現在の基準で読み進めると、えっ!と思うことも多いかもしれませんが、社会情勢によって保健師に求められる役割の変化と、ブレない心情を感じてもらいたいと思います。			
離島の保健師：狭さとつながりをケアにする	青木さざり	青土社	392p
	498.14/215		
先生からの推薦文 3人の離島で働く保健師を対象に著者が質的研究を行ったものを一般向けの本にまとめたものです。著者は現役の離島保健師として活動されているときに保健師ジャーナル(図書館にも定期購読雑誌としてあります)に連載をもっていました。離島という、よくも悪くも狭すぎるコミュニティは、住むのも働くのも大変だと読みながらすごく感じました。読み進めるにつれ、3名の離島保健師が著者のインタビューを通して自己洞察して成長されているのが話の流れでもわかり、離島保健師側の視点で読むと一緒に成長しているように感じられる本です。			
逝かない身体：ALS的日常を生きる	川口有美子	医学書院	265p
	493.6/79		
先生からの推薦文 表紙の夕焼けが本当に綺麗な、ALS在宅療養者の在宅介護の記録の本です。記録といっても時系列のものではなく、介護者である娘の立場からの想いや考えが綴られています。ALSの病態として、ざっくりという身体が自由がきかなくなるけれど、意識や思考はクリアな状態は自分だったら…と、無意識に考えないようにしているというのが正しいのかもしれませんが。考えずに、どうして療養者の方や介護者のことを考えられるのかと、自分の中の倫理的葛藤もあぶりだされる読後感です。学生の皆さんにも、いち家族の介護を知ってどう感じるのかの読書体験をしていただきたいです。また、よく出てくる「見守り」ということばの曖昧さ、医療や福祉の中でのその捉え方の違いについても知るきっかけになる本です。			
驚きの介護民俗学	六車由実	医学書院	233p
	369.26/386		
先生からの推薦 介護だけでなく看護も「ケアする人」「ケアされる人」という認識や関わり方が抜けきらない感じはありますが、本来は違うよねと本書を読んで感じました。介護を受ける高齢者もいきなり今の状態ではなく、幼少期からの生活背景があるという、当たり前のことだけれど忘れがちな部分かもしれません。私自身も、学生の時から「傾聴が大事」「hearとlistenは違う」「非言語的コミュニケーション」と言われてきたけれど、著者の言うように「言語的コミュニケーションは充分か」の問いにはハッとしました。みなさんの日常における「言語的コミュニケーション」「非言語的コミュニケーション」の振り返り、実習ではどうする?と考えるきっかけになると良いなと思います。			
いっしょに考える外国人支援：関わり・つながり・協働する	南野奈津子編著	明石書店	230p
	369.1/146		
先生からの推薦文 「外国人支援」というとすごく大変なイメージもありますが、考える前にまず「知ること」、そして考えて、アクションだ!と読んで感じます。「なかなか一歩を踏み出せない私たち」と本書のはじめにありますが、自分のことだなと思いました。医療、教育、福祉、DV、難民など、外国人支援に関わるそれぞれの専門家による章立てになっていて、具体的なケース紹介もあり、制度と場面の繋がりが、繋がっていかなくて支援から抜けてしまう部分についてもとてもわかりやすく書かれています。街中だけでなく、卒後就職する医療機関や保健機関にも日本で暮らす外国人の方は多くいらっしゃいます。これからの学生生活や実習などでも、関わる人は日本国籍や日本を母語とする人ばかりではないかもしれません。勉強になる1冊だと思います。			

泥だらけのカルテ：家族のもとに遺体を帰しつづける歯科医が見たものは？	土居健郎	講談社	173p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
2011年3月11日に発生した、東日本大震災に関する本です。大切な人の死を認めたくないご遺族の気持ちや、「家族の元に帰してあげたい」と願う人たちの思い、地域に根付いた歯科医師だからこそできること、たくさんの様々な立場の方の想いが垣間見える本です。震災から13年経過しても、それぞれの想いは被災者であってもそうでなくても自分も含めて終わりはないと改めて感じます。また、「カルテ」に情報があるからこそ、本人の情報と確認ができたというところから、記録に残すことの大切さ、誰がみても同じように意味内容を捉えられるように記す記録の書き方についても思いを馳せてほしいと思います。			
物語介護保険：いのちの尊厳のための70のドラマ(上)	大熊由紀子	岩波書店	263p
	364/290/1		
先生からの推薦文			
2000年にスタートした介護保険の成立までを福祉先進国のデンマーク等から日本に持ち込み、日本バージョンに合うようにどう検討していったか、というプロセスを記した上下巻の上巻にあたる。一昔前までの国内での介護や療養（といえるかどうかという部分もあるけれど）の実態から、記者視点でのメディア戦略や官公庁での人間模様などリアリティに溢れる描写が多く記されている。「熱意をもって」と好意的に書いてはいるけど、霞ヶ関の働き方は異常だと読んでいて感じました。介護保険制度にまつわる本作ですが、労働環境という点でもみてみると違う視点で考えることもできるかもしれません。			
物語介護保険：いのちの尊厳のための70のドラマ(下)	大熊由紀子	岩波書店	293p
	364/290/2		
先生からの推薦文			
上巻に比べて、官公庁や自治体の話が多く出てきます。介護保険制度スタートに向けて、立案する政府側と実施主体の市町村という構図で話が展開されていきます。上下巻通して同じ人が何度か登場し、1つずつの章としては読みやすいですが、全体像を俯瞰してみようと思うと何度と同じ話が出ているような気もしつつ、自分で整理しながら読む必要もあるかもしれません。介護保険制度開始から幾度の改正も経て24年、使わずに済む生活が理想なのかもしれませんが、必要な人が必要なタイミングで利用できるよう、利用時はその人本人と家族、地域の生活が守られる制度であってほしいと読みながら感じました。みなさんはどう感じるでしょうか。			
旅のことは：認知症とともにによりよく生きるためのヒント	井庭崇、岡田誠編著	丸善出版	96p
	493.75/68		
先生からの推薦文			
優しいことばで語られる、認知症とともに前向きに暮らしていくためのヒントが詰まっている本です。行動レベルのアクションの内容も多く、認知症に限らず、年齢や性別問わず生活の変化に直面した時にも活用できそうな内容となっています。本著のまえがきに書いてありますが、敢えて「～しましょう」ではなく、自分ごと目線になるようにという書き方も、内に語りかけられるような伝え方に仕掛けられていてスッと自分の中に入ってくる感じがします。認知症というと、若い世代からすると行動の理解が難しかったりしますが、自分に置き換えて考えやすいという点でも読みやすく、手に取りやすい一冊です。			
痴呆の人の思い、家族の思い	呆け老人をかかえる家族の会 編	中央法規出版	177p
	493.7/507		
先生からの推薦文			
「認知症」に名称や呼称が変わる前のときの本なので、「痴呆」という言葉になっています。介護生活の現在進行形の方や、わからなくなっていく自分に戸惑いながら暮らしている認知症当事者の方の思いが綴られている本。一つ一つのエピソードは1ページにおさまる量ですが、その短い文章に様々な思いや情景が込められています。内容も認知症に関する事実記載というよりも、その時どう思ったか、どう感じたか、振り返って考えるとこういう意味があったのかも等、タイトル通り当事者の方、そのご家族の方の「思い」がたくさん詰まっています。			
介護するからだ	細馬宏通	医学書院	279p
	369.26/385		
先生からの推薦文			
「行為」という複数の行動の組み合わせとしての人の動きではなく、一つ一つの行動の意味について対象者の属性から紐解いていく内容です。対象は施設への入居者だけでなく、関わる支援者や参与観察者としての著者や著者のもとで学ぶ大学生も含まれています。普段、意識せずに行っている何気ない一つ一つの行動の意味を推測してアセスメントすることの大切さ、それらが具体的な、そして効果的な支援に繋がっているという「関わり」の大切さも感じられる本です。			

ケアへのまなざし	神谷美恵子	みすず書房	263p
	080/143/24		
先生からの推薦文			
精神科医の神谷先生のハンセン氏病の療養所での体験を中心とした心理や哲学など分野横断的な内容となっています。難しい、けれど読後は何だか救われた気にもなりホッとした感じにもなります。イッキ読みというよりは少しずつ理解を深めていくように読むのがオススメです。看護学の分野でも「経験知」と「暗黙知」など言われますが、この本を読んで、それら2つを繋げることの大切さも感じられます。また、作品内での対談で、引用が多いことに対して、神谷先生自身は「自分の考え方と他の人の考え方を確かめ合いたいわけですから」と、主張ばかりでなく、鵜呑みだけでなく、他者の意見を尊重しご自分の意見を再考されています。自己や相手主体と、どちらかの見方だけでなく、様々な角度から物事を捉え、考えるという大切な視点についても気づくことができる本です。			
「死の医学」への序章	柳田邦男	新潮社	267p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
体調が悪化して死期を悟っても精力的に活動をしていた精神科医の西川喜作先生の想いは、現代の医学だけでなく医療界全体、そして一般市民にもさまざまな形で浸透していると思います。生まれる前や生まれた後の学問は数多くあり、よりよく生きることは一般的に良しとされています。「死生学」や「タナトロジー」など学問としても、患者本人へのがん告知のことも、より良く生きるためのACPにしても、死を考えることや口に出すことにタブーがなくなりつつあります。私はこの本を読んで、死を考えることは生を考えることにつながっているんだ、と強く感じました。自分の死期を悟りながら、精神的には受容に向かいつつ、身体面での抗いの葛藤なども感じます。みなさんは読んでどのような気持ちを持たれるでしょうか。			
医療とケアの現象学：当事者の経験に迫る質的研究アプローチ	榊原哲也，西村ユミ編/孫大輔 [ほか] 著	ナカニシヤ出版	269p
	490.7/75		
先生からの推薦文			
私自身、本格的な勉強にはなかなか入り込めていませんが、関心のある現象学に関する一冊です。全章引きこまれるように読むことができます。インタビューの内容はもちろんのこと、インタビュアー自身の捉え方に焦点を当てている手法に関しても、とても新鮮な気持ちで読み進められます。中でも、私自身の体験と照らし合わせても第2部第7章で、抱えていたモヤモヤ感と国家資格である免許職に対する自覚や責務など諸々考えていたことに対してのAnswerをもらって気がして、心情的にすごく救われた一冊でした。何のこと？という感じだと思いますが、第2部第7章だけでもぜひ読んでもらいたいと思います。			
医療・看護事故の真実と教訓	隈本邦彦	ライフサポート社	233p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
18年前の本で古いですが、このジャンルの本は最新のものも含め多く出されていますが、それでも紹介したいなと思いました。今でも十分起こりうる事故と活かせる教訓になっていると思います。事故を起こした本人や関係医者、状況の振り返りやレポート記載などはどの組織でも必要な理由があるからこそおこなっています。だけれどそれだけで終わりにしてしまったら、次に活かせるかと言われたら違うなとも思います。本文中でも「who」ではなく「why」をとありますが、何事もなぜ起こったのかを起点にしながら予防策を考えていくことが重要だと再認識できます。正しい方法は教えても、間違えるとどうなるかの教育の視点が少ないことについても述べられています。正しさはそのまま覚えることで終わりますが、間違えるとどうなるか・間違わないためにどうすれば良いのかは「思考するプロセス」が求められます。教育にもつながる考え方だと思いましたので、私自身も参考にしていきたい視点だなと考えながら読みました。			
認知症ケアの倫理	箕岡真子	ワールドプランニング	172p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
平成23年の本で少し古いので、介護保険サービスに関する話など制度面は少し変わっているところもあります。ケアをどうするか、というよりも認知症の人の内面に焦点を当てながら倫理的課題や葛藤などの解説が書いてあります。内容と直接関係なさそうな表紙のシロクマたち、この表紙をみてみなさんはどう思いましたか？私は、かわいいな、という思いと、お互い表情や態度が見えなかったら聞こえてくる言葉を頼りに推察するしかないよねと思いました。			

まとめないACP：整わない現場、予測しきれない死	宮子あずさ	医学書院	160p
	490.14/32		
先生からの推薦文			
アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは、人生の最終段階で受ける医療やケアなどについて、患者さんと家族などの身近な人、医療従事者などが事前に繰り返し話し合う取り組みのことです。その人の人生の最終段階がより良いものであるために、ACPの普及活動が行われ、医療従事者も積極的に取り組んでいます。一方で、ACPを国や医療従事者主導で行うことに、私は時々怖さを感じます。自分たちが患者さんに延命や治療を諦めることを推していないか、大事な決心を急かしていないか、という怖さです。この著者は、私が臨床で感じていたモヤモヤについて議論しています。ガイドラインや教科書通りにはすすめられない実際の現場や、患者さんやご家族のゆれる心にどう寄り添っていくべきか、この本を参考に考えてもらえるとうれしいです。			
誰かのためなら人はがんばれる：国際自立支援の現場でみつけた生き方	木山啓子	かんき出版	221p
	S3/23850		
幸せは自分のなかにあった。仕事、人間関係、将来のこと…ほんの少し、見方、ものさしを変えてみると、今よりずっと生きやすくなる。			
世界で生きる力：自分を本当にグローバル化する4つのステップ	マーク・ガーソン著；松本裕訳	英治出版	314p
	S3/23731		
「私たちは嫌われているの？」中国人に聞かれた。どう答えるべきか…世界経済フォーラムや国連で活躍するトップ・ファシリテーターが示す、「自分と世界の関わり方」。			
ポストコロナ期を生きるきみたちへ	内田樹編/斎藤幸平 [ほか] 著	晶文社	306p
	304/186		
わたしたちはいま、この矛盾に満ちた世界をどうするか分岐点に立っている。この「歴史的転換点」以後の世界を生きて中高生たちに向けて、5つの世代、20名の識者が伝える「生き延びるための知恵」の数々。知的刺激と希望に満ちたラジカルなメッセージ集。			
客観性の落とし穴	村上靖彦	筑摩書房	191p
	S3/23754		
「その意見って、客観的な妥当性がありますか？」この感覚が普通になったのは、社会の動きや人の気持ちを測定できるように数値化していったせいではないか。それによって失われたものを救い出す。			



鈴木 雪乃 先生

(精神看護援助論)

こころのナース夜野さん <1>～<4>	水谷緑	小学館	156p
	S4/21487-1～4		
先生からの推薦文			
これはマンガです。精神科病院に入院する患者さんに寄り添う精神科看護師、夜野さんの物語です。統合失調症、境界性パーソナリティ障害、アルコール依存症・・・様々な精神疾患を抱える患者さんと向き合う、夜野さんの素直な気持ちや葛藤、周りの先輩看護師の反応がとてもリアルに描かれています。私自身が、精神科病棟で看護師として働いていた時のことを思い出しました。精神科病棟ってどんなところなんだろう？精神科看護師って何をするの？と興味を持つすべての方に、読んでほしいシリーズです。			
あん	ドリアン助川	ポプラ社	259p
	S9/19909		
どら焼き店の求人を見てやってきた徳江という高齢の女性。彼女が「あん」づくりに託した人生とは？ 深い余韻が残る現代の名作。			
統合失調症がやってきた	松本ハウス	幻冬舎	243p
	S9/21483		
人気絶頂の最中、突如姿を消した一人の芸人。お笑いコンビ「松本ハウス」は、ハウス加賀谷の統合失調症悪化により1999年活動を休止した。相方・松本キックの視点を交えながら復活までの軌跡を綴る。			
相方は、統合失調症	松本ハウス	幻冬舎	276p
	S9/21484		
相方であるハウス加賀谷の病(統合失調症)による活動休止から10年を経ての復活。でも、現実そんなに簡単ではなかった…。松本キックが、復活までのこと、復活からのことを綴る。相方への思いが胸を打つノンフィクション。			
おとずれナース：精神科訪問看護とこころの記録	のまり	ぶんか社	155p
	S4/21489		
さまざまな「こころの病」を抱える患者たちの自宅を訪問する、看護師がいるのを知っていますか？在宅で自分らしい生活を……患者やその家族たちの生活を手助けする精神科訪問看護の世界を描いた注目作！			

土屋 裕美 先生

(成人看護援助論Ⅱ 看護過程)

大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる! 4訂版	世界思想社編集部	世界思想社	127p
	377.15/119		
先生からの推薦文 高校生から大学生になり、授業のノートの取り方は、先生の板書を書き写すスタイルから、自ら聴いた講義の内容についてポイントをまとめてノートを作りあげるスタイルに変わります。また、講義の前後には予習・復習が必要となり、講義・ゼミ・実習では、レポートの提出や発表をする機会があります。 この図書は、ノートの取り方、レポートの書き方、大学図書館の使い方や資料の探し方、ゼミ発表の仕方など、大学4年間の基本的な学習方法やマナーがイラスト付きで、非常にわかりやすくとまとまっています。 皆さんの大学生活をスムーズに送るための手助けになると思い、本書を推薦致します。			
看護学生のための実習の前に読む本	田中美穂, 蜂ヶ崎令子	医学書院	123p
	492.9/122		
受け持ち患者さんと何を話せばいいの？ 忙しい看護婦さん、いつ声をかけたらいいの？ 患者さんの急変どうしよう！ 臨地実習の前には不安がいっぱい。そんな皆さんを応援するための本ができました。コミュニケーションのコツ、困ったときの乗り切り方など、実習前の学生が知っておきたいノウハウを、この1冊に詰め込みました。実習前に、実習中に、頼りになるお守り本です。			

看護倫理：見ているものが違うから起こること	吉田みつ子	医学書院	156p
	492.901/51		
なぜ、患者さんはわかってくれないの？それは、患者の体験している世界と、看護師の体験している世界が異なるから。看護師と患者の体験世界の違いがどこから生じ、論点がどこにあるかを考えることが、倫理的な看護の第一歩です。「あとでっていつ?」「決めつけないで」…患者さんの声の背景には、看護師の立ち位置から見えにくい、患者・家族のストーリーがあるはずです。			
看護学生してはいけないケースファイル：臨地実習禁忌集	下司映一，菅原スミ，浅川和美	丸善出版	116p
	492.907/113		
ゲッシー先生が伝える禁忌事例の正しい対処マニュアル。			
看護研究ははじめの一步	岡本和士編集/岡本和士，長谷部佳子執筆	医学書院	157p
	492.9/83		
看護研究のテーマ，どうやって見つけるの？ 統計や研究の本，読んでも全然わからない！質問紙調査は，患者さんの負担にならない？文献，お金，そして患者さんへの配慮のこと。 データ整理，論文作成のコツ。わかっていそうで、わかっていない，一番大切な研究の基本，「はじめの一步」で楽しく学ぼう！			

富澤 栄子 先生

(老年看護学概論 老年看護援助論 認知症看護援助論)

キラリ看護. 新訂	川島みどり	医学書院	216p
	498.14/168		
先生からの推薦文			
看護の魅力はどこにあるのか？これから看護師を目指そうとしている高校生、看護を学んでいる看護学生、入職間もない看護師の皆さんに是非とも手に取っていただきたい書籍です。看護師を50年以上続けてきた大先輩の川島みどり先生が語る「看護の魅力」を届けたいと思い、本書を推薦させていただきます。			
本当の看護へ：“看護ナラティブ(物語)”から学ぶ臨床の知と技	内山孝子	看護の科学新社	223p
	492.9/243		
先生からの推薦文			
全編が患者とともに創った物語（ナラティブ）で構成されている本書は、看護師がなすべきことは何か、本当の看護とは何か？著者は、本書を通して患者に真摯に向き合う看護師の軌跡を語っています。これから実習を経験する、また実習を終えた看護学生の皆さんに読んでいただき、看護実践を探究する手掛かりにしてほしい書籍です。			
看護の力	川島みどり	岩波書店	206p
	080/132/1391		
人間誰もが持つ自然に治る力を引き出すこと。著者はこれこそが看護の営みの原点と言う。美味しく食べて、気持ち良く清潔に過ごし、ぐっすりと眠れるように…人間らしく生きるふつうの暮らしを整えるケアとは何か。胃瘻や床ずれ対応のヒントに、「下の世話」や代用入浴の心得など。現役看護師として六〇年、その心と技の真髄。			
廃用身	久坂部羊	幻冬舎	402p
	S9/23826		
廃用身とは、脳梗塞などの麻痺で動かず回復しない手足をいう。神戸で老人医療にあたる医師漆原は、心身の不自由な患者の画期的療法を思いつく。それは廃用身の切断だった。患者の同意の下、次々に実践する漆原を、やがてマスコミがかぎつけ悪魔の医師として告発していく。			
解夏	さだまさし	幻冬舎	499p
	S9/23705		
東京で教師をしていた隆之は、視力を徐々に失っていく病におかされ、職を辞し、母が住む故郷の長崎に帰った。そこへ東京に残した恋人の陽子がやってくる。ある日、二人はお寺で出会った老人から「解夏」の話を聞く―。表題作他、人間の強さと優しさが胸をうつ、感動の小説集。			

中神 克之 先生

(成人看護学概論、看護学研究方法論など)

世界の一流は「休日」に何をしているのか	越川 慎司	クロスメディア・パブリッシング	204p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
大学生にとって、休日は貴重な時間です。勉強やアルバイトで忙しい日々の中、どのように休みを過ごすかで、その後のパフォーマンスが大きく変わります。『世界の一流は「休日」に何をしているのか』は、成功者たちの休日の過ごし方を紹介しながら、効率的なリフレッシュ法や自己成長につなげるヒントを教えてください。単なる「休む時間」ではなく、より充実した人生を送るための「戦略的な休日」の使い方が学べる一冊です。学生のうちにこの考え方を身につければ、将来のキャリアにもきっと役立つはずです。			
図解眠れなくなるほど面白い心理学の話	渋谷昌三監修	日本文芸社	127p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
「なぜ人はこう考えるのか?」「どうしてあの行動をとるのか?」。日常のちょっとした疑問を心理学の視点で解き明かしてくれるのが、この『眠れなくなるほど面白い 図解 心理学の話』です。専門的な内容も、豊富なイラストとわかりやすい解説でスラスラ読めるので、心理学に初めて触れる人にもおすすめです。対人関係やコミュニケーションに役立つ知識が満載で、読んだその日から使えるテクニックも学べます。自分や他人の心の仕組みを知ること、人間関係の悩みも軽くなるかもしれません。まさに「眠れなくなるほど面白い」一冊です!			
図解眠れなくなるほど面白い解剖学の話	坂井建雄監修	日本文芸社	190p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
私たちの体は当たり前のように動いているようで、実は驚くほど不思議な仕組みに満ちています。『眠れなくなるほど面白い 図解 解剖学の話』は、そんな人体のナゾをわかりやすい図解とともに解説し、学問としての解剖学をぐっと身近に感じさせてくれる一冊です。医療系を目指す人はもちろん、日常生活の中で「なぜ?」と思う体の仕組みを楽しく学びたい人にもおすすめです。知らなかった人体の秘密を知ること、自分の体への理解が深まり、健康意識も高まるはずです。気づけば夢中になって読んでしまう、まさに「眠れなくなるほど面白い」本です!			
消化器(ナースング・グラフィケーエックス)	三原弘 [ほか] 編	メディカ出版	398p
	492.9/214/3		
先生からの推薦文			
消化器の働きは、私たちの健康と密接に関わっています。『消化器 (ナースング・グラフィケー疾患と看護(3))』は、消化器系の解剖・生理から疾患のメカニズム、看護のポイントまでをビジュアルでわかりやすく学べる一冊です。図やイラストが豊富なので、難しい内容もスムーズに理解でき、国家試験対策や実習時の学習にも最適です。消化器疾患の理解を深めたい看護学生はもちろん、患者さんへのケアを考える上でも役立つ知識が満載です。これからの看護に自信を持つために、ぜひ手に取ってほしい一冊です。			
医者が教えるサウナの教科書: ビジネスエリートはなぜ脳と体をサウナでととのえるのか?	加藤容崇	ダイヤモンド社	223p
	購入準備中		
先生からの推薦文			
現代の大学生は、勉強やアルバイト、就職活動に追われ、知らず知らずのうちに心身のストレスを抱えがちです。そんな時にこそ、この本が役立ちます。『医者が教えるサウナの教科書』は、単なるリラクゼーションとしてのサウナではなく、科学的根拠に基づいた健康効果やパフォーマンス向上の方法を詳しく解説しています。忙しい毎日の中で、短時間で効率よく「ととのう」習慣を取り入れることで、集中力が上がり、勉強の質も向上するはずです。サウナをより深く知りたい人、健康や効率的なリフレッシュ法を求める人に、ぜひ読んでほしい一冊です。			

教養としての「ラテン語の授業」：古代ローマに学ぶリベラルアーツの源流	ハン・ドンイル著；岡崎暢子訳	ダイヤモンド社	275p
	購入準備中		
先生からの推薦文 全世界で30万部のベストセラー。ラテン語がわかれば、歴史、教養、文化の根底がわかる。ラテン語こそ、最強の教養である。西洋文明の根源であるラテン語を通して、歴史、文化、宗教、恋愛、経済を学ぶ。今日できることを翌日に延ばすなんて考えたこともなかっただろう。明日に先延ばしできることは何か？絶望したり、投げ出したりしたくなる気持ちは明日に先延ばしできる。“人生とは神から与えられた贈り物である”と受け止めて生きれば、明日のことで思い煩うことなどないといわれても難しいのだが、迷ったり、行き詰ったりしたときの助けにはなる。			
最高のコーチは、教えない。	吉井理人	ディスカヴァー・トゥエンティワン	270p
	購入準備中		
先生からの推薦文 本書では、「教える」のではなく、「考えさせる」コーチング理論と、実践方法を紹介。コーチの語源は、「大切な人をその人が望むところまで送り届ける」馬車。理想の状態や次に取りたい行動は、本人の自己決定による。コーチは、「その人の目標達成を支援する」のである。今やるべきことを未来の理想の状態から逆算し、相手がたどり着きたい目標設定やそこに向かう具体的な行動をサポートする。これは、セルフコーチングでも同じである。			
心をととのえるスヌーピー：悩みが消えていく禅の言葉	チャールズ・M.シュルツ[原]著/谷川俊太郎訳/栢野俊明監修	光文社	191p
	SI/21491		
先生からの推薦文 名言が多く哲学的なピーナッツコミックは、実は禅の考え方に通じているものがたくさんある。谷川俊太郎氏の美しい翻訳とスヌーピーに癒される。先行きの見えないストレスフルな時代でも前向きに生きるヒントを得て、スヌーピーのように、今を大切に、人と比べず、のんびりでいいから、貴重なひとりの時間を大切にし、自分のペースで、思いやりを持って過ごしたい。			
“承認欲求”捨ててみた：他人を恐れない自由な心を手に入れる自己改造法	諸富祥彦	青春出版社	222p
	購入準備中		
先生からの推薦文 誰でも他人から認められたい。SNS全盛期において、世の中の8割は、「承認欲求で生きている人たち」。だから、成功していても、自分と他人を比べ、世間や他者のまなざしばかり気にする。これは断ち切れない呪いのようなものである。呪いからの離脱は自分で気づくことだが、これはむずかしい。本書は、あなたが「承認欲求を捨て」、「自分の人生を取り戻す」ための本。 1. 世間からの承認が得られると、自分には価値があると考えるのは愚かだと気づく。2. 自分と他人を比べるのは愚かだと気づく。3. 絶えず周りの目ばかり気にして生きるのは愚かだと気づく。この3つくらいは心がけて気づきたい。			
夜と霧：ドイツ強制収容所の体験記録	ヴィクトール・フランクル著；霜山徳爾訳	みすず書房	208p
	945/10		
先生からの推薦文 世界中で1200万部印刷された著者のホロコースト体験記。人が目の前の「生の意味」を見出すことを援助することによって心の病を癒す心理療法であるロゴセラピーの端緒となった。人にその生活状況の中で「生きる意味」を充実させることができるように、あるいはその価値の評価の仕方を変えることができるように援助しようとするものである。どんな苦境にあっても、「それでも人生に意味がある」。人生に無駄なことはないのである。			
明日できる仕事は今日やるな：マニャーナの法則完全版	マーク・フォースター著；青木高夫訳	ディスカヴァー・トゥエンティワン	285p
	購入準備中		
先生からの推薦文 本書は、画期的なタイム・マネジメントの書としてイギリスでベストセラーになった「Do It Tomorrow」の翻訳版。時間管理術不朽のロングセラー。よく知られているオープン・リストはTO DOリスト。一見よいようだが、発生するタスクは、随時いくらかでも追加、差し込まれる。クローズ・リストは、やるべきタスクを一覧にしたものでいわゆるチェックリスト。必要な仕事はすべて網羅されているが、新たに追加されることがない。先のことを考えるとつづれそうになるが、まずは今日できることをひとつひとつ確実にしていくための方略を身につけたい。			
木挽町のあだ討ち	永井紗耶子	新潮社	267p
	913.6/772		
先生からの推薦文 第169回直木三十五賞・第36回山本周五郎賞 受賞作にして、今もっとも注目される時代・歴史小説家による、現代人を勇気づける令和の革命的傑作。舞台は人気芝居小屋・森田座を擁する木挽町。ある雪の夜、そこで一件の仇討ちがあった。まだ元服前の美しい若衆・菊之助が、父を殺して逃げていた下男を見事討ち取ったのだ。その様子は木挽町の語り種となった。それから二年。菊之助の知り合いを名乗るひとりの武士が木挽町を訪れた。彼は仇討ちの現場にいた人々のところを巡っては、当時の話を聞かせてほしいと頼む。同じ事象を別の視点から見ると、明らかになることも…。読み終えたら、本の装丁、裏表紙まで、もう一度見直していただきたい。			

西地 令子 先生

(公衆衛生看護学)

うまくいっている人の考え方, 完全版	ジェリー・ミンチントン著/弓場隆訳	ディスカヴァー・トゥエンティワン	239p
	SI/10290		
先生からの推薦文			
人生ではつまづく場面が多い中、この1冊を読んで持っていると、勇気づけられる。つまづいた時には、このような本を読みながらゆっくりお休みしてみてください。自分の人生を振り返り前に進むために、是非1度は読んでもらいたい一冊です。			
聞く力：心をひらく35のヒント	阿川佐和子	文藝春秋	253p
	S3/7175		
先生からの推薦文			
看護職にとって、知識や技術はもちろん必要ですが、聞く力は必要不可欠です。対象者あるいは患者の意向や想いをしっかり聞くことは、対象者等に適切なケアにつながるだけでなく、カタルシス効果にもなります。是非一読をしてみてください。			
嫌われる勇氣	岸見一郎, 古賀史健著	ダイヤモンド社	294p
	SI/12396		
どうすれば人は幸せに生きることができるかという哲学的な問いに、きわめてシンプルかつ具体的な答えを提示する「アルフレッド・アドラーの思想(アドラー心理学)」について、青年と哲人の対話形式を用いてまとめる。			
賢くしなやかに生きる脳の使い方100	中野信子	宝島社	238p
	購入準備中		
脳科学の知見をベースにした考え方や、不安や恐れに対する具体的な対処法を入門者にもわかりやすく紹介!100のメソッドを生活のなかで生かしていけば、それをきっかけに道が開けていき、幸せを感じながら生きられるようになります。			

橋本 侑美 先生

(小児看護学)

医療的ケア児の命をつなぐ	金沢貴保	幻冬舎メディアコンサルティング	198p
	購入準備中		
先生からの推薦文 日本の新生児死亡率の低さは世界でトップクラスです。 医療の進歩により、小さく生まれたお子さんや先天性疾患のあるお子さんの命が救われるようになりました。 その一方で、小さく生まれたお子さんや先天性疾患のあるお子さんの中には、出生直後に重度な脳の障害が生じる、生きていくために何らかの医療的ケアが必要となる等、お子さんご家族にとって様々な困難があることも現実です。 医療的ケア児とその家族のために必要なサポートとは何か？、この本は、小児医療の現場から一人の医師が医療的ケア児とその家族が直面する困難に焦点を当て、その解決に向けた具体的な取り組みを紹介しています。医療的ケア児とその家族、そして医療・介護の現状を具体的に知ることができる一冊です。			
みんなでできる医療的ケア児サポートBOOK	富田直編著代表	照林社	207p
	369.4/736		
出生から退院、入園・入学、卒業後も支援にかかわる、すべての人に、ずっと使える知識と、支えになるアドバイスが満載！			
小児フィジカルアセスメントポケットBOOK：項目ごとに正常かどうか判断しよう	荒木暁子，鈴木千琴編	照林社	157p
	S4/24013		
言葉でうまく伝えられない小児の“正常”をみるための技術をまとめました。正常or正常ではないが判断できる！			

子どもの「痛み」がわかる本：はじめて学ぶ慢性痛診療	加藤実	医学書院	150p
	購入準備中		
子どもは大人より痛みを感じやすい？ 子どもの頃の痛みの体験がその後も影響する？ 予防接種の時に痛みを減らす方法があるの？ 集学的痛みセンターで長いあいだ慢性痛診療に取り組んできた著者が伝える、子どもならではの「痛み」の診かた・考えかた。同じ「痛み」でも急性痛と慢性痛の捉え方のちがいを、診療のコツや豊富な症例を交えながら、わかりやすく解説している。			
はたらく細胞人体のふしぎ図鑑：からだのしくみを学べる!	講談社編/シリウス編集部、はたらく細胞製作委員会監修/原田知幸医療監修	講談社	111p
	S4/19117		
TVアニメも第二期の制作が決定した『はたらく細胞』が、小学生向けの読み物として登場しました。本書は、アニメのイラストを200枚以上使いながら「からだの仕組み」をわかりやすく解説しています。			

林 由利江 先生

(フィジカルアセスメント 基礎看護技術演習Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ)

大地、改版 1～4	パール・バック [著]/新居格訳 /中野好夫補訳	新潮社	1: 490p 2: 463p 3: 469p 4: 389p
	S9/18277 -18280		
先生からの推薦文			
19世紀後半から20世紀初頭の激動の中国で、三世代に亘り、命がけて道を開く人々のドラマです。わずかな土地を大地主の黄（ホワン）家から借りて耕す小作農の王龍（ワンロン）は、黄家の奴隷である阿蘭（アラン）を嫁にもらうことになりました。美しくはないが非常に働き者の妻を娶った王龍は、子宝に恵まれ、黄家の土地を買うまでに運が上向き始めます。この作品で、パールバックは、ノーベル文学賞、ピューリッツァー賞を受賞した名作です。私は、この小説を高校生の時に読み大きな衝撃を受けました。読む毎に大地に根ざして生きる人々の人生を描く感動の長編です。			
医療安全ワークブック、第4版	川村治子	医学書院	244p
	S4/17094		
先生からの推薦文			
この本は、看護学生の皆さんが講義や演習、臨地実習などでも活用できる内容です。また、看護師として働き始めたときにも大変に役立つ本です。医療事故防止のために、起こりうる危険性を知ることが重要なことです。本書は、臨地実習や医療現場で起こりうることを医療に携わる者として、必ず知っておくべき内容をイラストや事例によりわかりやすく説明されています。医療安全に関する必要な知識を楽しく学んでいきましょう。			
看護事故の舞台裏：22事例から徹底的に学ぼう	長野展久	医学書院	228p
	498.12/49		
重大な看護事故を時系列に沿って詳しく分析した『看護管理』の好評連載「看護事故の舞台裏」が1冊に。事例の紹介だけでなく、あらかじめ用意された「問い」が自発的な学びを促進し、「事例検討」から導かれる「再発防止のポイント」を明示することで、医療安全意識の向上に活用できる。			
看護の力	川嶋みどり	岩波書店	206p
	080/132/1391		
人間誰もが持つ自然に治る力を引き出すこと。著者はこれこそが看護の営みの原点と言う。美味しく食べて、気持ち良く清潔に過ごし、ぐっすりと眠れるように…人間らしく生きるふつうの暮らしを整えるケアとは何かを問う。			
患者安全のためのノンテクニカルスキル超入門	相馬孝博	メディカ出版	111p
	498.16/29		
優れた医療従事者になるには、状況認識力、意思決定力、チームワークとコミュニケーション力、リーダーシップとフォロワーシップで示される「ノンテクニカルスキル」が不可欠である。チーム医療時代に医療従事者を目指す人のための基礎スキル指南書。			

坂 恒彦 先生

(老年看護援助論)

看護学生のためのよくわかる大学での学び方 第2版	梶谷佳子, 河原宣子, 堀妙子 編集	金芳堂	220p
	492.907/55		
先生からの推薦文 この書籍は大学での学修方法やレポート作成の基本、またプレゼンテーション方法など大学生に必要な基本的学修スキルについて書かれています。一度、この本を手にとってみたらどうでしょうか。きっとこの本は皆さんの学びをサポートしてくれると思います、本書を推薦させていただきます。			
看護の力	川嶋みどり	岩波書店	206p
	080/132/1391		
人間誰もが持つ自然に治る力を引き出すこと。著者はこれこそが看護の営みの原点と言う。美味しく食べて、気持ち良く清潔に過ごし、ぐっすりと眠れるように…人間らしく生きるふつうの暮らしを整えるケアとは何か。胃瘻や床ずれ対応のヒントに、「下の世話」や代用入浴の心得など。現役看護師として六〇年、その心と技の真髄。			
現代看護理論：一人ひとりの看護理論のために	西村ユミ, 山川みやえ編	新曜社	272p
	492.901/29		
看護理論は取っつきにくくて難しい？実践から理論を捉え直し、理論を実践に活かすために、現場の言葉をキーワードに、事例に照らしながら、看護理論のエッセンスを平易に紹介する。理論と実践がハーモナイズされた27項目。			

松田 優子 先生

(在宅看護概論、在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ)

コミュニティナース：まちを元気にする“おせっかい”焼きの看護師	矢田明子	木楽舎	263p
	492.99/33		
先生からの推薦文			
看護師といえば、病院の中で働くイメージが強いと思いますが、コミュニティナースという新しい働きかた・生きかたが、全国各地で始まっています。コミュニティナースは、地域の中での見守りや巡回など、さまざまな活動を通して地域の人たちのそばで関係性を深め、安心を届けることで、健康的なまちづくりに貢献する看護師です。この活動をたった一人で始めた女性と、全国で広がるコミュニティナースたちの取り組みが紹介されています。コミュニティナースとは、在りかたであり、コンセプト、生き方とも表現されています。大変読みやすく、看護の場の多様性と、地域での看護をライフワークとする「生きかた」の視野も広げてくれる一冊だと思い、皆さんにお薦めします。			
在宅無限大：訪問看護師がみた生と死	村上靖彦	医学書院	253p
	492.993/65		
病院によって大きく変えられた「死」は、いま再びその姿を変えている。現在の在宅死は、かつてあった看取りの文化を復活させたものではない。先端医療が組み込まれた「家」という未曾有の環境のなかで、訪問看護師たちが地道に「再発明」したものである。著者は並外れた知的肺活量で、訪問看護師の語りを生け捕りにし、看護が本来持っているポテンシャルを言語化する。「看護がここにある」と確かに思える一冊。			
在宅医療カレッジ：地域共生社会を支える多職種学び21講	佐々木淳編集	医学書院	255p
	498/2113		
首都圏最大級の在宅医療ネットワーク 医療法人社団悠翔会が提供する、医療・介護の多職種のための学びのプラットフォーム「在宅医療カレッジ」。多方面で活躍するトップランナーが「教授」として登壇し、満員続きの人気講義を精選して再現！			
記憶する体	伊藤亜紗	春秋社	277p
	369.27/127		
視覚障害、吃音、麻痺や幻肢痛、認知症などをもつ人の11のエピソードを手がかりに、体にやどる重層的な時間と知恵について考察する、ユニークな身体論。			

「 脳コワさん 」支援ガイド	鈴木大介	医学書院	212p
	493.73/179		
高次脳機能障害の人も、発達障害の人も、認知症の人も、うつの人も、脳が「楽」になれば見えている世界が変わる。それが最高の治療であり、ケアであり、リハビリだ。疾患ごとの〈違い〉に着目する医学＋〈同じ〉困りごとに着目する当事者学＝「楽になる」を支える超実践的ガイド！			
健康禍：人間的医学の終焉と強制的健康主義の台頭	ペトル・シュクラバーネク著； 大脇幸志郎訳	生活の医療	241p
	498/2116		
健康はいつから宗教になったのか。現代社会の矛盾に挑んだ医師、シュクラバーネクの忘れられた傑作を翻訳。健康主義から帰結した事例と共に、生活習慣主義に収まらずさらに広がる健康主義の暴走を描写する。			

松田 麗子 先生

(成人看護援助論Ⅱ(急性期) 看護過程)

嫌われる勇氣	岸見一郎，古賀史健著	ダイヤモンド社	294p
	SI/12396		
先生からの推薦文			
看護師は、患者の命や健康を支える責任を担いながら、時には自分を犠牲にしても他者を優先することが求められる職業です。しかし、自己犠牲だけでは持続可能なケアは難しく、看護師自身のメンタルヘルスにも影響を与えます。本書は、アドラー心理学の視点から「他者の評価に振り回されず、自分の人生を生きる」ことの大切さを説いています。 看護を学び始める学生にとって、自分と患者、そして周囲との関係性をどう築くかは重要なテーマです。「課題の分離」や「承認欲求からの解放」といった考え方は、患者や同僚との関係を築く上でのヒントとなるでしょう。看護師も一人の人間であり、自分の感情を押し殺すだけでは長く働き続けることはできません。むしろ、自分を大切にしながら患者と向き合うことで、よりよいケアが実現できるのではないのでしょうか。これから看護を志す皆さんに、本書は大切な視点を提供してくれる一冊です。			
サバイバル・ウェディング	大橋弘祐	文響社	331p
	購入準備中		
寿退社した日に、婚約破棄された黒木さやかに、ブランド大好きDS編集長が与えた仕事は期限6か月の婚活だった。エルメス、ルイ・ヴィトン、ルブタン……、高級ブランドの戦略で突き進むノンストップラブコメ！			
DIE WITH ZERO：人生が豊かになりすぎる究極のルール	ビル・パーキンス著；児島修訳	ダイヤモンド社	278p
	購入準備中		
全米注目のミリオネアが教える後悔しない人生を歩むための究極のルール！死ぬときに後悔するお金の貯め方とは？人生が豊かになりすぎるお金の使い方とは？読んだら、人生の景色がガラリと変わる。10代～40代、必読の一冊！			
運転者：未来を変える過去からの使者	喜多川泰	ディスカヴァー・トゥエンティワン	239p
	購入準備中		
「…なんで俺はばかりこんな目に合うんだよ」思わず独り言を言った、そのときだ。ふと目の前に、タクシーが近づいてくるのに気づいた。累計80万部喜多川泰、渾身の感動作！報われない努力なんてない！			
看護師のためのキャリアデザインBOOK：働き方を考えるためのデザインワークブック	濱田安岐子監修	つちや書店	127p
	購入準備中		
看護師の「看護」をする現場における職場選択を前提に、看護師として働くことを考えたキャリアデザインについて解説。看護師として充実した人生を送るための必携ワークブック。			

山本 駿 先生

(小児看護学)

老年看護学/小児看護学, 第8版	医療情報科学研究所	メディックメディア	423p
	(請求記号なし)		
先生からの推薦文			
学生向けに執筆されており、分かりやすくイラストや過去の国家試験の問題もあります。そのため、文章ばかりの本が苦手な方は最初の1冊として手に取りやすい本だと思います。 医療制度の変更に伴い、本も定期的に更新されているため、授業後の復習や実習前の予習、国家試験に向けての自己学習に役立ちます。(本書は2019年発行のため現在と異なる場合があります) 私も看護学生の時(実習期間中、国家試験前)によく読んでいました。			
18トリソミーの子どもたち: 出会えた奇跡をありがとう	Team 18	水曜社	350p
	S4/19059		
重度の先天性障害=不幸というイメージから脱却し、18トリソミーの子と約300家族の幸せの肖像を発信するオールカラー写真集。			
死ぬ瞬間 死とその過程について	エリザベス・キューブラー・ロス; 鈴木晶訳	中央公論新社	468p
	S4/17435		
死とは、長い過程であって特定の瞬間ではない—人生の最終段階と、それにともなう不安・恐怖・希望…二百人への直接面接取材で得た“死に至る”人間の心の動きを研究した画期的な書。			
探偵ガリレオ	東野圭吾	文藝春秋	330p
	S9/19067		
突然、燃え上がった若者の頭、心臓だけ腐った男の死体、池に浮んだデスマスク、幽体離脱した少年…警視庁捜査一課の草薙俊平が、説明のつかない難事件にぶつかったとき、必ず訪ねる友人がいる。帝都大学理工学部物理学科助教授・湯川学。常識を超えた謎に天才科学者が挑む、連作ミステリーのシリーズ第一作。			
推理小説	秦建日子	河出書房新社	317p
	S9/19066		
会社員、高校生、編集者…面識のない人々が相次いで惨殺された。事件をつなぐのは「アンフェアなのは、誰か」と書かれた本の葉のみ。そんな中、出版社に届けられた原稿には事件の詳細と殺人予告、そして「事件を防ぎたいければ、この小説の続きを落札せよ」という要求が書かれていた…最注目作家、驚愕のデビュー作。			



脳を傷つけない子育て：マンガですっきりわかる	友田明美	河出書房新社	158p
	S3/22638		
先生からの推薦文			
小児精神科医の医師による、幼少期の体験と脳への影響を科学的な研究結果をもとにした書籍です。幼少期の体験が脳に変化をもたらすことを、脳の大まかな解剖と役割からその変化についてわかりやすく解説してあります。発達段階に応じた子どもの「気になるふるまい」への対応もイラストで示されています。内容は奥深いものですが、読みやすい内容です。医療系の学生さんはもとより、子どもにかかわる方に読んでいただき、子どもへのかかわり方が重要だということを理解していただけたらと思います。			
〈老い〉という贈り物：ドクター井口の生活と意見	井口昭久	風媒社	179p
	S4/22589		
「これが老人だ!」という典型がなくなったのが現代ニッポンである。日々の診療現場の〈こちら側〉と〈あちら側〉、日常の中で起きる悲喜こもごもの人間模様を軽妙な筆致で綴った第7エッセイ集!			
許す力(大人の流儀：4)	伊集院静	講談社	189p
	S9/9549		
忘れられない。許せない。私も同じだ。人はみな、許せないことを抱えながら生きて行く。だが、許すことで始まる人生もある。本物の大人になる、そのための必読書——シリーズ累計140万部超の大ベストセラー第四弾。			
君たちはどう生きるか	吉野源三郎	マガジンハウス	318p
	S1/15462		
貧困、いじめ、勇気、学問…。今も昔も変わらないテーマに、人間としてどう向き合うべきか。時代を超えた名著、新装版で再び。			
僕らの未来が変わるお金と生き方の教室：君が君らしく生きるために伝えておきたいこと	池上彰監修	Gakken	311p
	S3/22591		
お金のことと自分の生き方について、深く考えられる革新的な一冊!			

